

施設名：東京医科歯科大学医学部附属病院 氏名：平野博美

【概要】

平成26年消費税率が8%へ引き上げられ、消費税の負担が医療機関を直撃した。当院でも多大な影響を受け、平成27年度予算は赤字となった。病院の企画戦略会議では増収への対策が話し合われた。その結果4床室にユニットを設置し準個室化、差額料金を徴収する案が採択された。しかし、これまで当院では多床室で差額料金を徴収する病室は存在しなかった。その為、「患者説明への負担感」、「ベッドコントロールへの不安感」、「病床を稼働しながらの準個室化への環境整備の困難さ」等いくつかの問題が上がった。そこで、業務担当副看護部長として4床差額病床をスムーズに導入し、軌道に乗せることを目標に看護の立場から健全な病院経営に参画することとした。

結果、看護管理者の協力も得られ当初50床の予定であった4床差額病床が最終的には148床稼働した。また療養環境に関する患者の満足度は高く、患者との目立った大きなトラブルがないこと、稼働率80%、差額料徴収率97%であることは評価できる。これは入院前の外来での説明と病棟での看護管理者の説明や対応が丁寧に行われている成果ではないかと考える。

現在差額室料の患者への説明に際して、看護管理者はじめ外来看護師が多く時間を割いている。今後は入院センター設置などを視野に入れシンプルで効率的なシステムを作る必要がある。

【背景】

平成26年消費税率が8%へと引き上げられ、その影響で当院の病院経営も逼迫したものとなった。病院の企画戦略会議では、経費削減はもとより、増収への対策が話し合われた。その結果、診療報酬以外の収入源として考えられたのが差額病床での収入である。

差額病床数は、全病床数（特殊病床を除く）の50%まで認められているが、平成27年4月時点の当院の差額病床率は10%であり、平成26年度の差額料算定割合は92.3%であった。そこで、4床室に環境ユニットを設置し準個室として差額料金を設定する案が採択され、平成27年7月1日より14室（56床）の差額病床が稼働することとなった。

しかし当院は平成26年4月の時点では、多床室で差額料金を徴収する病室は存在しないことから患者の理解を得るのが難しいこと。それに加え、病棟看護管理者からは患者への説明に対する負担感や、90%近い稼働率でのベッドコントロールへの不安感が聞かれた。また、準個室化への環境整備は病床を稼働しながら行わなければならないことなどの課題が考えられた。

そこで、業務担当副看護部長として「4床差額病床のスムーズな導入を行い軌道に乗せる」ことを目標に看護の立場から健全な病院経営に参画することとした。

【実践計画】

目標：4床差額病床のスムーズな導入を行い軌道に乗せる。

計画：患者の満足度が得られる療養環境を整備し、かつ病棟看護管理者の負担感・不安感の軽減への支援をする。

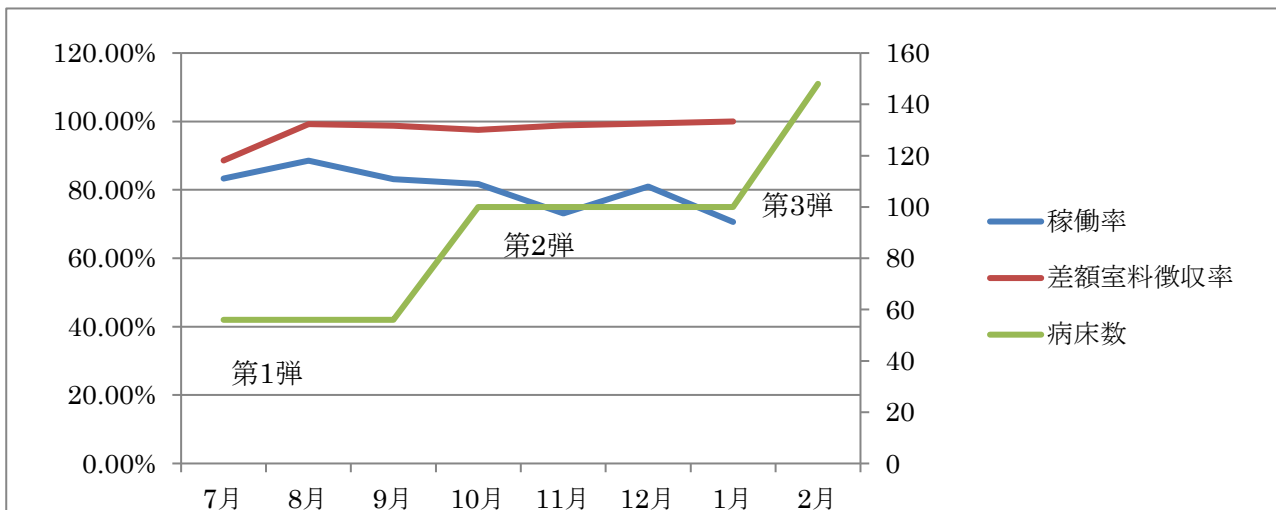
1) 4床差額室の環境整備工事がスムーズに行えるよう調整する。

- ・病室内環境整備(ユニット設置工事・ベッドマット交換・扇風機設置等)は病室を稼働しながら行う為、患者への説明を十分に行い、円滑に工事が行えるよう計画する。
- ・部署の希望を優先した綿密な計画・詳細な患者の移動手順書を作成し配布する。

- ・副部長が工事へ同席し、当日スケジュールの微調整や時間管理・緊急対応・病棟管理者と業者との調整を行う。
- 2) 病棟看護管理者が4床差額室を主体的に導入できるよう支援する。
 - ・病棟ラウンドや病棟管理者ヒアリングにて問題の早期発見・解決を図る。
 - ・ベッドコントロール・差額室料説明は、外来・医療支援センターの協力を得る。
 - ・病院ワーキングでの決定事項を迅速に伝え情報の共有を図る。
 - 3) 医師を含めた病院職員に対して、4床差額室稼働向上への意識づけを図る。
 - ・病院運営会議や看護管理者会議にて稼働率・差額室料収入・差額料徴収率を部署別に提示する。
 - ・病院長ヒアリングやメールマガジンでの話題にする。(病院長)

【結果】

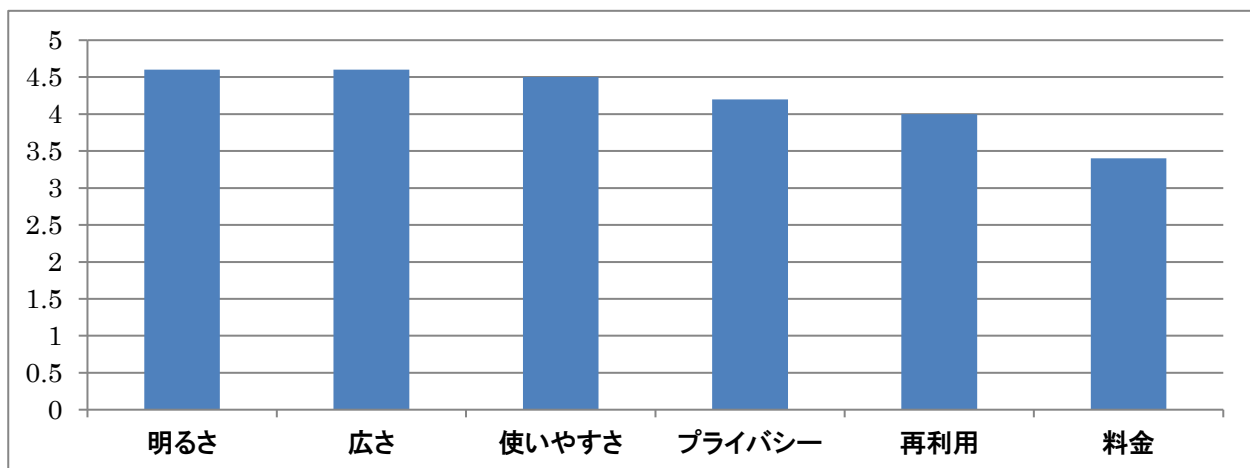
[4床差額病床の稼働率・差額病室料徴収率・差額病床数の推移]



当初、14室（56床）の差額病床稼働の予定であったが、第2弾（H. 27. 10）として11室（44床）、第3弾（H. 28. 2）として12室（48床）が稼働し、総数148床となり院内の差額病床率は平成28年2月時点で34%と上昇した。病床を稼働しながらの環境整備工事を行ったが第3弾の工事では、病棟管理者が積極的に関わり全工程問題なく経過した。また、平成28年1月に行われた院長ヒアリングでは各診療科の医師の反応も良く4床差額病床の平均稼働率80%、差額料徴収率は100%に近い数字で推移している。

[入室患者満足度インタビュー結果]

各部署1名～2名（総数：15名） 5点満点評価



4床差額病床に関する意見(苦情)は現在まで投書箱には届いておらず、料金に関してのトラブルは、これまでに1件のみである。また、入室患者のインタビューでは、環境についての評価は5点満点で平均4.4点であった。料金設定については、同じく5点満点で3.4点であった。

【評価及び今後の課題】

当初50床の予定が100床となり最終的には148床となったこと。患者との目立ったトラブルがないこと。稼働率80%、差額料徴収率97%であることは評価できる。これは入院前の外来での説明や病棟での看護管理者の説明や対応が丁寧に行われている成果ではないかと考える。

今後の課題としては、差額室料の患者説明に際して、看護管理者はじめ外来看護師が多くの時間を割いている。これからは、入院センター設置や事務部の協力を得て看護師の負担を軽減する必要がある。